

令和4年



天空の不夜城

令和4年 8月2日(火)・3日(水) 運行

高さ日本一の灯籠が練り歩く

1世紀の時を経て復活

能代には古くから続く、伝統的な夏の七夕行事があります。

田楽を子供達が頭に寄せ、太鼓、笛を伴い、巨大な鯨を冠した城郭型の灯籠がまち中を練り歩くというものです。

文献によると、灯籠の形は天保時代(1830年～1844年)に、名古屋城を模した城郭型が作られ、これが好評で城郭型灯籠の大型化が進み、高さ五丈八尺(17.6m)幅三間四方(5.4m)もある灯籠を夜明けまで引廻したとあります。明治時代に撮影された銀板写真に、当時の巨大な灯籠の姿が残されています。時代がすすみ、電気の普及により、電線が街中に張り巡らされたことにより、現在では8mほどの高さの灯籠が運行されています。

しかし、平成24年、市内国道101号の電線地中化が完了したことを機に、私たちのまち能代を元気にしたい、能代に誇りを取り戻したい、その一心で1世紀の時を超えて5丈7尺の大型灯籠 嘉六を復活させ、平成25年に運行いたしました。翌26年からは、日本一の高さ(24.1m)を誇る愛季もあわせて運行しております。令和4年は、嘉六、愛季、能代若1基、一中若(2日)・二中若(3日)の合計4基での運行となります。

天空の不夜城
運行コース

国道101号
市役所～通町

《観覧席についてのお問合せ》

能代観光協会 ☎ 0185(88)8802



天空の不夜城
運行スケジュール

8/2・3
両日とも

17:30	道路交通規制
18:00	手踊り等
18:24	オープニングセレモニー
18:25	挨拶、音頭上げ
18:31	出発
20:00	整列、揃い打ち、点灯式
20:08	挨拶(解散式)
20:10	格納開始

※運行状況などにより時間が前後する場合がございます。

無料駐車場

利用可能時間 16:00～21:00

- | | |
|--------------|------|
| ① 能代青果地方卸売市場 | 200台 |
| ② 能代水産 | |
| ③ 子ども館 | 40台 |
| ④ 能代市総合体育館 | 130台 |
| ⑤ 市民臨時駐車場 | 100台 |
| ⑥ 能代市文化会館 | 100台 |
| ⑦ 山本地域振興局 | 100台 |
| ⑧ 丸水秋田中央水産 | 20台 |

※一般のお客様もいらっしゃいますので、駐車場のご利用の際はご配慮くださいますようお願いいたします。

交通規制

規制時間 17:30～21:00

完全通行止 ▶ 通町交差点～市役所交差点
交通規制 ▶ 昭南町交差点～大町交差点



ドローン禁止

ドローンを、天空の不夜城運行日下記
の場所を使用することを禁止します。

- 観覧者のいる所を含む運行コース
- 各イベント会場
- 交通規制を行っているところ

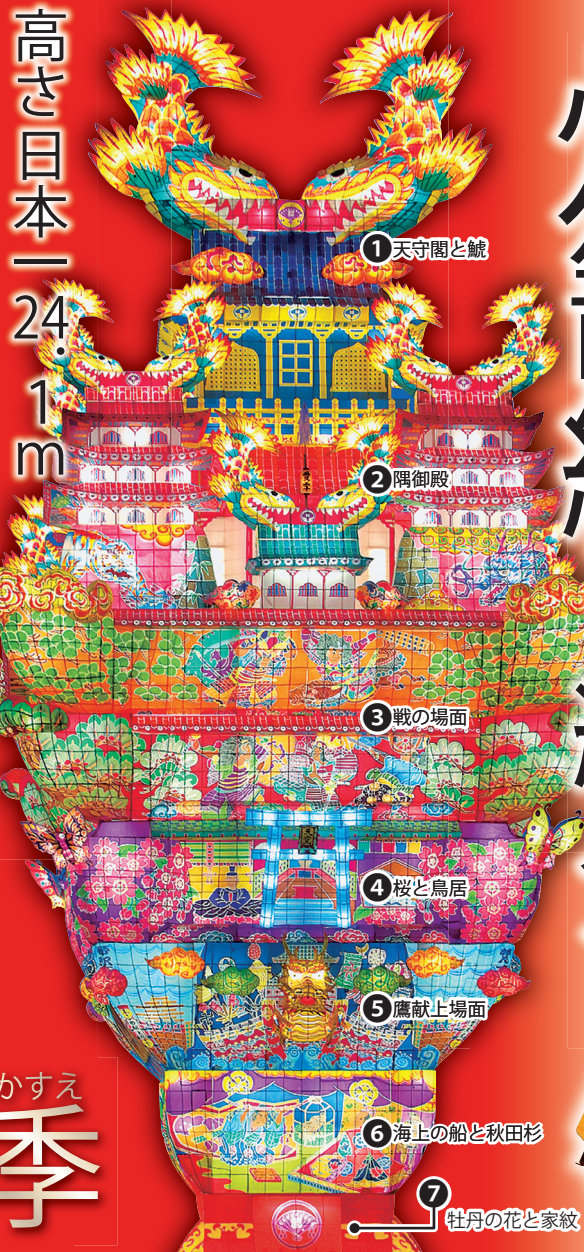
明治時代の銀板写真を元に復元された、高さ五丈八尺（17・6m）の大型灯籠第1基目です。こちらは平成25年に制作・運行されました。名称の「嘉六」は、能代の七夕行事で最初に名古屋城を模した灯籠を制作した大工「宮腰屋嘉六」の名前から名づけられました。当時の文献は能代の大火で焼失しており、残された白黒の銀板写真から当時の色彩は再現することはできませんでしたが、豪華絢爛ながら雅な色合いで纏めています。

一世紀の時を超えて復活17・6m

嘉六

灯籠絵の紹介

高さ日本一24・1m



1 天守閣と鯨

隅御殿のその上に聳えるのは、織田信長の居城である安土城をモチーフにした天守閣です。天守閣の上の一際巨大な鯨、高さ5mもの大きさがあります。

2 7 段目「隅御殿」

城郭の石垣には四聖獣である、青竜・朱雀・白虎・玄武が描かれ、各御殿の上にも鯨が据えられています。

3 5・6 段目「戦の場面」

檜山安東氏と、雄物川上流域の大名湊氏との勇猛な戦のシーンが描かれています。5段目では敵陣に攻め込む安東氏が、6段目には湊氏の攻撃を防ぐ息子の実季氏が描かれています。

4 4 段目「桜と鳥居」

安東氏が鶴形神社に絵馬を奉納したということから絵馬を。また正面の水色の鳥居は鶴形檜山神社の石の鳥居をイメージしています。

5 3 段目「海上の船と秋田杉」

一際目を引く龍は、安土桃山時代の戦船である「あたか船」の船首で、前後にかけて描かれています。

4角に描かれているのは、当時の海上輸送に使われていた「北前船」です。左右の面に描かれているのは、米代川上流から秋田杉を切り出し、筏に組んで米代川を下り能代まで運んでいる場面です。豊臣秀吉が伏見城を築城する際、この方法で秋田杉を大阪まで運んだという逸話があります。

6 2 段目「鷹献上場面」

安東氏の逸話に、織田信長に鷹を献上したという文献が残っており、前面で安東氏の家臣が織田信長に鷹を献上し、褒美の刀剣を賜る場面が描かれます。後ろの面では、鷹の雛を捕獲する場面が描かれています。

7 1 段目「牡丹の花と家紋」

牡丹の花と、安東氏の扇の家紋が描かれています。

1 天守閣と鯨

天守閣または本丸と呼ばれるこの部分は能代七夕では「本御殿」とよばれております。その上には能代七夕が誇る巨大な鯨が据えられており、この鯨は嘉六のもので高さが3mあります。

2 8 段目「隅御殿」

櫓が四方に配置されており、一般的に「隅御殿」と呼ばれます。こちらには石垣と鶴、松竹梅と雀など、縁起の良いとされるものが描かれています。

3 7 段目「石灯籠」

こちらは城郭の石垣と漆喰の壁に、門が配置されています。門は表を「前御殿」裏側を「後御殿」と呼んでいます。

4 5・6 段目「松」

松が描かれるこの段には、名古屋城の襖絵を元に描かれた城内の風景と武士公家を描いています。

5 4 段目「桜」

桜が描かれるこの段は、華やかな花見の様子が描かれています。これは江戸時代の風俗画をモチーフに描かれました。

6 3 段目「波灯籠」

波灯籠と呼ばれるこの部分は、豊かな水が蓄えられた城郭の堀。泳ぐのは赤青の夫婦鯉に亀、紅白の錦鯉と縁起がよい水辺の生き物を桜が彩ります。

7 2 段目「花灯籠」

花灯籠と呼ばれるこの場所には、華やかな牡丹の花が描かれています。

8 1 段目「紅白の幕」

紅白の幕の部分が1段目にあたります。